PART2 当・応

③ **当＝当（まさ）ニ～ベシ／（当然～すべきだ・しよう）**

（例）

当レ帰（とつガシム）レ汝。〔　　〕（当然お前を嫁がせよう。）

不レ**当**レ発二悪願一。〔　　〕（当然悪い望みを持つべきではない。）

④ **応＝応（まさ）ニ～ベシ／（きっと～だろう・しよう・に違いない）**

（例）

応レ知レ之。〔　　〕（きっとこれを知っているに違いない。）

応レ**未**レ眠。〔　　〕（きっとまだ眠らずにいるだろう。）

問四　「当如此也。」ト の書き下し文として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　当(まさ)に此(か)くの如(ごと)くなるべきなりと。
イ　当(あ)たるも如(も)しくは此(こ)れにあらんやと。
ウ　当(まさ)に此(こ)れに如(し)くものあらんやと。
エ　如(ゆ)くに当(あ)たりて此(か)くなるべきなりと。

問五　「当㆓為ㇾ子沽㆒ㇾ酒。」を書き下し文にせよ。

注　沽…「沽(か)ふ」（＝買う）。

第５講　PART2　確認問題

①　傍線部の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

「生(マバ)レ子(ヲ)当レ如二※孫仲謀(ガ)一。」

※孫仲謀（そんちゅうぼう）…孫権（そんけん）。三国時代の呉の初代皇帝。

ア　当に孫仲謀がごときものなり。
イ　当に孫仲謀がごとくなるべし。
ウ　孫仲謀がごとく当たるなり。
エ　当たりて孫仲謀がごとくなるべし。

②　「当二相取一也。」は「どうしても（あなたを）つかまえなければならない。」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あひ取るにあたれるなり。
イ　まさにあひ取るべきなり。
ウ　よろしくあひ取るべきなり。
エ　まさにあひ取らんとするなり。
オ　よろしくあひ取らんとするなり。

③「応レ知二故郷事一。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　応に故郷の事を知るべし。
イ　応ぞ故郷の事を知らざる。
ウ　応しく故郷の事を知るべし。
エ　応だ故郷の事を知らず。

④「豈(あ)ニ応(ケンヤト)二復(ま)タ得一。」を平仮名のみの書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あにいまだまたえざりけんやと。
イ　あにすべからくまたうべけんやと。
ウ　あによろしくまたうべけんやと。
エ　あにまさにまたうべけんやと。

⑤「及ンデレ時ニ当ニシ二勉励ス一。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　時期に応じて励むことだろう。
イ　時期に応じて励もうとする。
ウ　時期を逃さず励むべきだ。
エ　時に及んでも励もうとしない。

第５講　PART2　解答

③〔当に汝を帰がしむべし。〕
〔当に悪願を発すべからず。〕
④〔応に之を知るべし。〕
〔応に未だ眠らざるべし。〕

問四　ア
問五　当に子の為に酒を沽ふべし。

第5講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

①「当」は再読文字で「まさニ～ベシ」と読む。「当レ如」とレ点があるので「当（まさ）に～ごとくなるべし」となる。よって、イが正解。

②「どうしても～（し）なければならない」（＝当然～すべきだ）という意味から、「当」は再読文字として「まさニ～ベシ」と読むことがわかる。よって、イが正解。

③「応」は再読文字で、書き下し文にするときには「応（まさ）に～べし」とする。よって、アが正解。

④再読文字の「応」は「まさニ～ベシ」と読むので、「応復得」は「まさにまたうべけんやと」となる。よって、エが正解。

⑤再読文字の「当」は「当然～すべきだ」という意味。よって、ウが正解。

〈解答〉

①イ　②イ　③ア　④エ　⑤ウ